

今週（3月19日から3月23日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が360兆円台前半からはじまり、20日に国債の大量償還を迎えた事で、週後半にかけて370兆円台前半まで増加した。無担保コールO/Nは、都銀・信託業態で▲0.08～▲0.075%、地銀業態で▲0.08～▲0.03%、証券業態で▲0.08～▲0.065%での調達が中心となるなど、全般的に弱含みであった。無担保コールO/N加重平均レートは、概ね▲0.06%台前半での推移となった。ターム物は、1W物を中心に▲0.03%台での出合いが複数見られた。

固定金利方式の共通担保オペは22日に、2W・8,000億円がオファーされ、落札額2,152億円(期落ち額1,162億円)となった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.17～▲0.095%の広いレンジでの取引となった。週を通して投資家の資金調達意欲が薄い中で、業者同士の売り買いが出合いの中心となっており、レートが飛びやすい地合いが続いていた。

SCは個別銘柄では5y130～135、10y334～350、20y160～164、30y50～57、40y10などのカレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、一旦落ち着いていた年度末越えの動きが再び強まり、全般的に堅調な展開となった。

22日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.155%から▲0.165%に買い進まれる展開となる中、平均落札利回▲0.1587%、按分落札利回▲0.1503%と概ね事前予想通りのしっかりした結果となった。セカンダリーでは、▲0.163～▲0.158%出合いと堅調に推移した。

短国買入オペは19日と23日に実施された。19日は、7,500億円でオファーされ、平均落札利回較差+0.004%、按分落札利回較差+0.002%と応札額が2兆円弱と多かった割には、落ち着いた結果となった。23日は、事前予想通りの2,500億円でオファーされ、平均落札利回較差±0.000%、按分落札利回較差▲0.004%と好需給を反映し、小じっかりした結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、期内物を中心に大型案件が見られたものの、決算期末を迎えるため一旦ロールを見送る発行体が多く、週を通して盛り上がり欠ける展開となった。そのため発行量は週間償還総額1兆3,000億円程度に対して、週間発行総額7,000億円程度と償還超となった。市場残高は、22日時点で17兆2,591億円と引き続き17兆円台を維持している。発行レートは、市場残高が減少する中、投資家やディーラーの玉確保ニーズの強さを反映し、期内物で0%から浅いマイナス圏、期末越え物についてはオペ見合いのニーズも加わり▲0.02%程度まで低下する銘柄も見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/19 (月)	21,480.90	0.035	105.83	△ 0.062	△ 0.101	3,635,500
3/20 (火)	21,380.97	0.035	106.11	△ 0.061	△ 0.154	3,685,400
3/21 (水)						
3/22 (木)	21,591.99	0.030	105.70	△ 0.063	△ 0.119	3,709,900
3/23 (金)	20,617.86	0.015	104.90	△ 0.064	△ 0.103	3,708,900

来週（3月26日から3月30日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/26 (月)					
3/27 (火)	2月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	40Y 5,000億円 3/29発行			1月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 3月の米CB消費者信頼感指数
3/28 (水)					10-12月期の米GDP確報値
3/29 (木)	2月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)	2Y 21,000億円 4/16発行			2月の米個人所得・消費支出 10-12月期の英GDP確報値
3/30 (金)	3月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 2月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 2月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 2月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 2月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)				3月のシカゴPM景況感指数 EURO、London祝日 (Good Friday)

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/26 (月)	200	21,900	22,100	全店共通 国債買入 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完	▲ 1,200 ▲ 400 500	2,200 7,700 1,500 700	11,000	33,100	介護保険制度運営推進費の払い TB3M発行▲44000償還42900
3/27 (火)	0	11,000	11,000	国債買入 短国買入		6,100 2,500	8,600	19,600	
3/28 (水)	0	▲ 4,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	財政融資資金の回収
3/29 (木)	▲ 1,000	7,000	6,000				0	6,000	年度末諸払い 40Y発行▲5000
3/30 (金)	500	15,200	15,700	CP買入		5,000	5,000	20,700	年度末諸払い
週 間 合 計	▲ 300	51,100	50,800	—	▲ 1,100	25,700	24,600	75,400	

3/26は日銀予想、3/27以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、公共事業費の払い等があることで余剰日が多く、引き続き落ち着いた展開が見込まれる。30日は年度末日にあたり、取り手が減少することから軟調な展開が予想される。

レボ市場は、国債の発行予定が29日の40年債のみである中、日銀オペ等を通して業者の売物は減少していくと考えられ、足元GCは▲0.20～▲0.10%と広いレンジでの推移になると予想する。また、3/30-4/2の末初物取引では玉確保姿勢から、更なるレート低下の可能性はある。

短国市場は、入札予定はなく、短国買入オペも行われない見通し。年度末を控えてマーケットの動向が注目される。

CP市場は、月末週となるものの、発行を見送る先が多く、通常の月末に比べて静かなマーケットとなることが予想される。発行レートについては、オペ見合いニーズの剥落により上昇が予想されるが、玉確保ニーズは引き続き旺盛であり、0%から浅いマイナス圏で推移すると思われる。また、27日にはCP等買入オペが5,000億円で予定されている。玉不足やオペ見合いから発行レートは強含んでおり、対象銘柄次第ではあるが、前回（平均▲0.032% 按分▲0.043%）からのレート低下が予想される。

主要なイベントとしては、28日に10-12月の米国GDP確報値、29日に10-12月の英国GDP確報値などが挙げられる。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまふようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によりリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録書をお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入